まんが 子ども太平洋戦争物語

思い出の花のうで輪

画・守谷哲己

この物語の背景となった おもなできごと

1931年（昭和6年）　満州事変が起こる。

1933年（昭和8年）　日本が国際連盟を脱退する。

1937年（昭和12年）　日中戦争がはじまる。

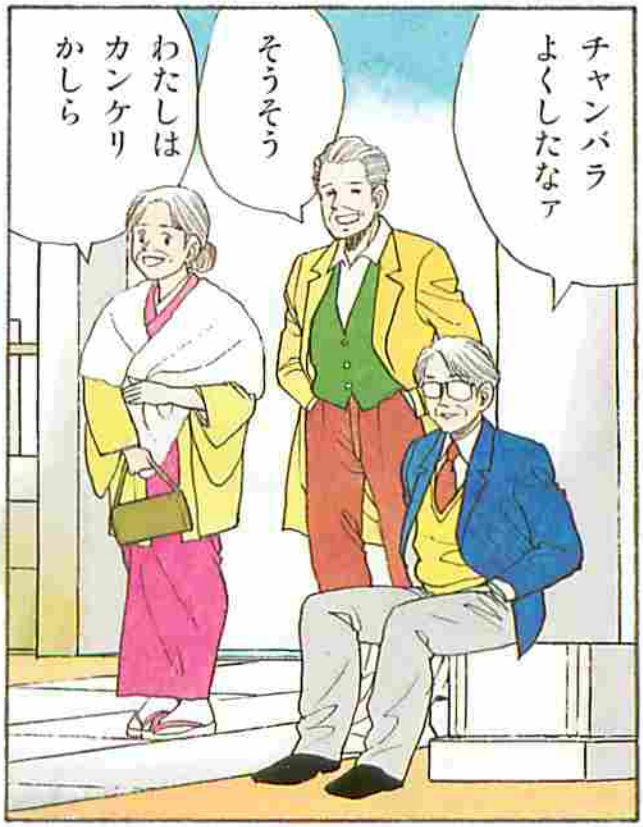
1939年（昭和14年）　第二次世界大戦がはじまる。

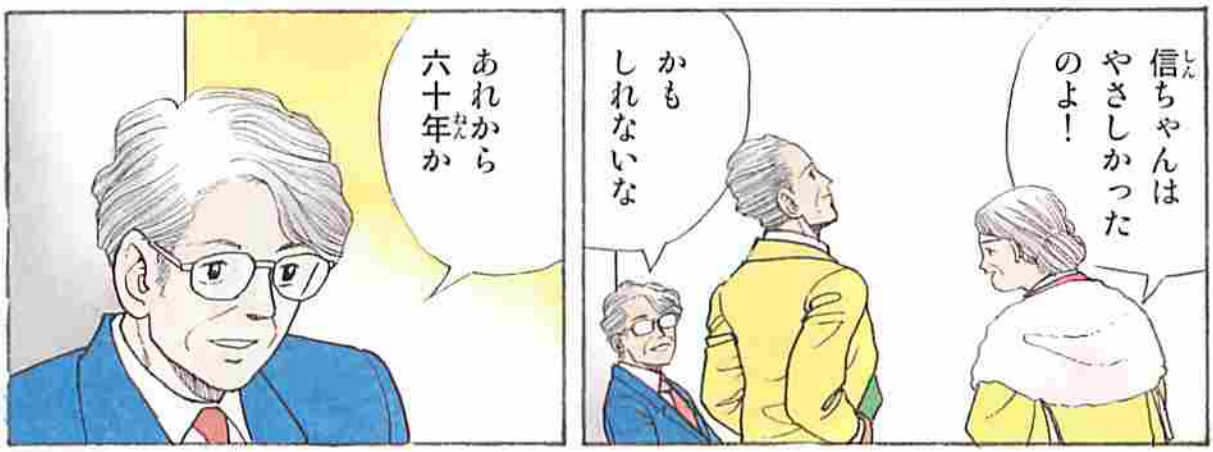
1941年（昭和16年）　太平洋戦争がはじまる。

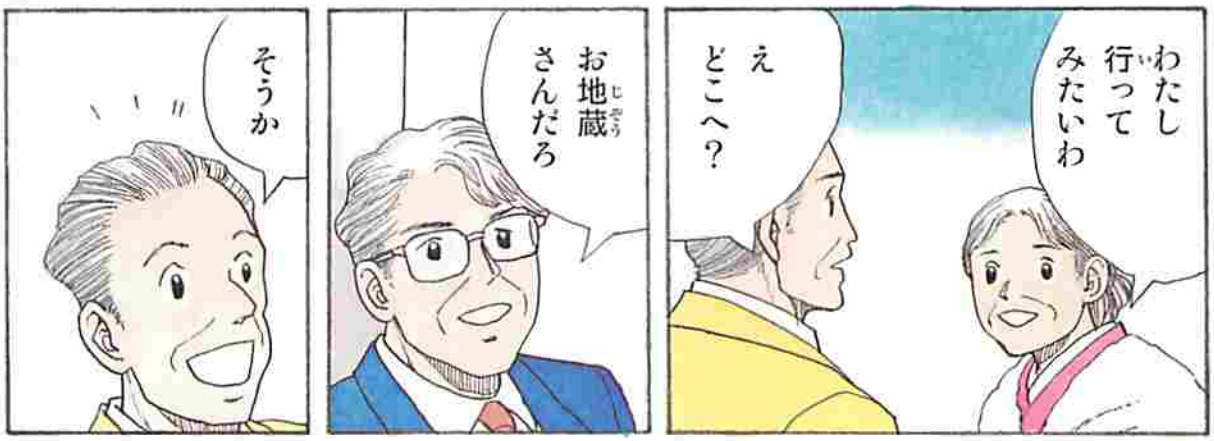
1942年（昭和17年）　日本本土がはじめて空襲される。

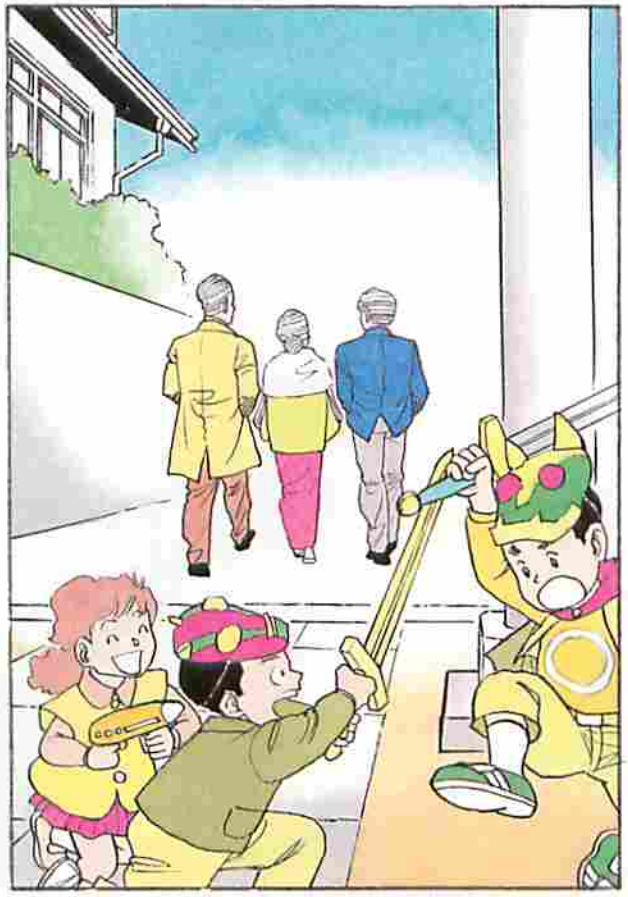
1945年（昭和20年）　東京などが大空襲にあう。
広島・長崎に原子爆弾が落とされる。
日本はポツダム宣言を受け入れて降伏する。

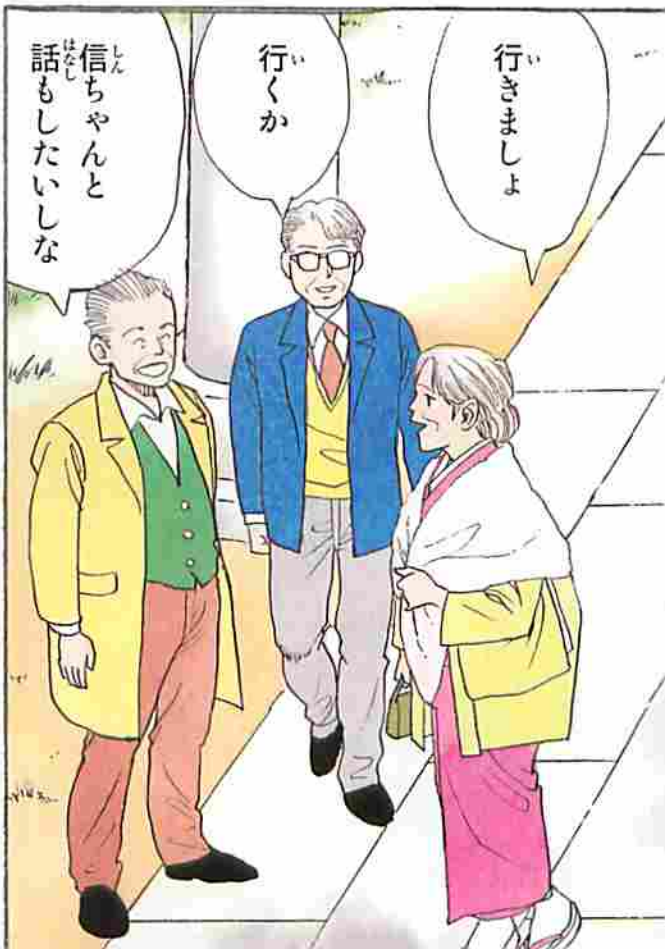
平成十七年三月
お彼岸のある日――




信ちゃんはやさしかったのよ！
かもしれないな
あれから六十年か


わたし行ってみたいわ
え どこへ？
お地蔵さんだろ
そうか




行きましょ
行くか
信ちゃんと話もしたいしな

昭和十七年
東京下谷区
（いまの台東区）

オレさまの剣を受けてみよ！

そんなに強くぶたないでよ

今度はオレが相手だ

いくぞ！

さぁこい！

ボクも相手だ

がんばって！

疎開

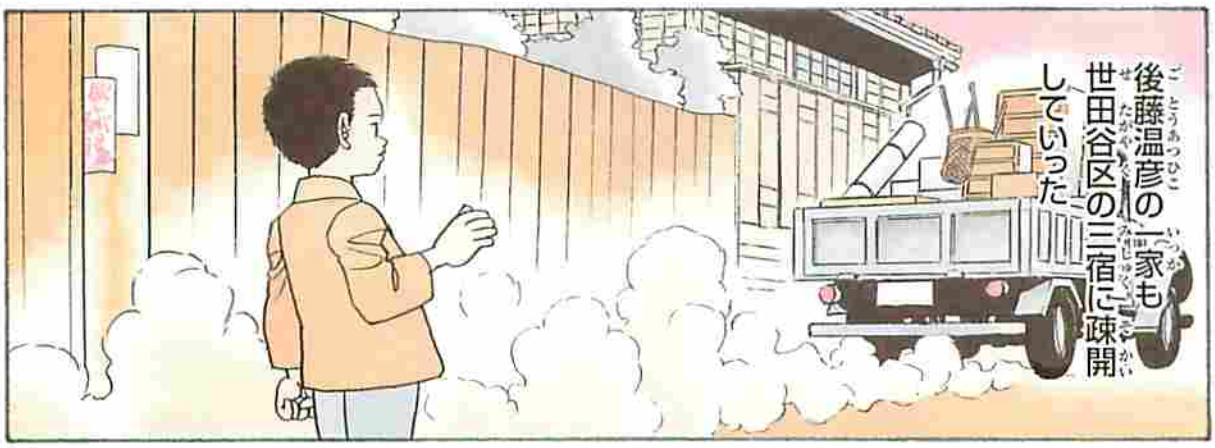
空襲をさけるため、人や物を都会から安全な地方へ移すことを疎開といいます。

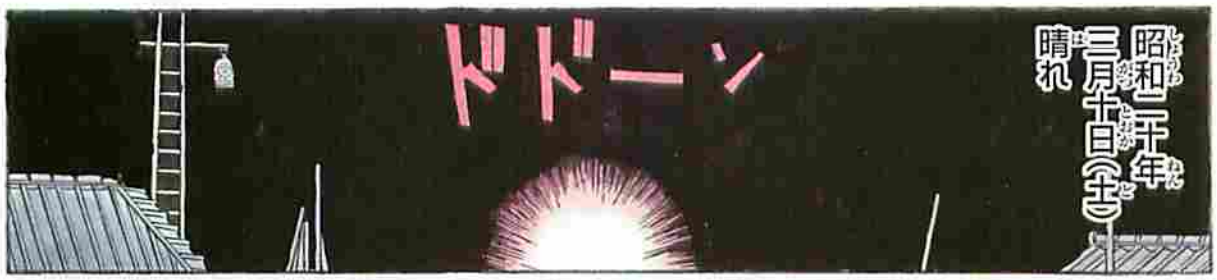
まだ空襲が少なかったころは、地方に住む親せきや知り合いのところに引っ越す、縁故疎開がほとんどでした。

そして、空襲が激しくなると学校ごとに移動する集団疎開が始まりました。この集団疎開には、集団生活によって戦う気持ちを高めるという、もうひとつの目的がありました。

物語の中の太郎や温彦のように、東京の中で、より危険が少ない地域へ引っ越すことも、疎開のひとつでした。

▲疎開先では、毎日集団での訓練があった





東京大空襲

東京が初めて空襲を受けたのは、昭和十七年四月十八日でした。その後、戦争が激しくなって、昭和十九年の終わりころから毎日のように爆撃されるようになりました。

昭和二十年三月十日午前〇時八分。三百機もの大型爆撃機B29がいっせいに東京の下町を襲いました。これが東京大空襲です。落とされたのは火事を起こすための爆弾（焼夷弾）で、下町一帯はまたたくまに火の海となりました。

大空襲による死者は約十万人ともいわれています。ぎせい者のほとんどは武器を持たない老人や女性、子どもでした。

▲一晩で焼きつくされた街
（現在の日本橋浜町付近）

未明に始まった空襲は
東京下町を焼きつくす
大火災となった

炎にまかれた人々は
逃げ場を失い
おおぜいが
焼け死んだ

遊び仲間の中村信吾も
幼なじみのお地蔵さまに
みとられるように息絶えた

それから数日後
足立区西新井大師

信ちゃんが死んだって？

間違いだといいんだけど

うそだ！信ちゃんは絶対生きてるよう

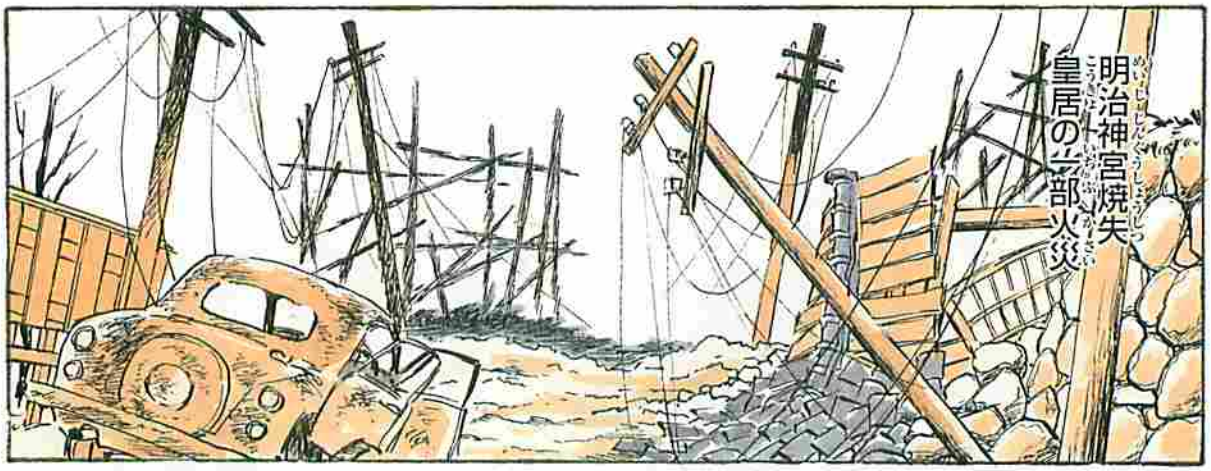
母さんもそう思うよ

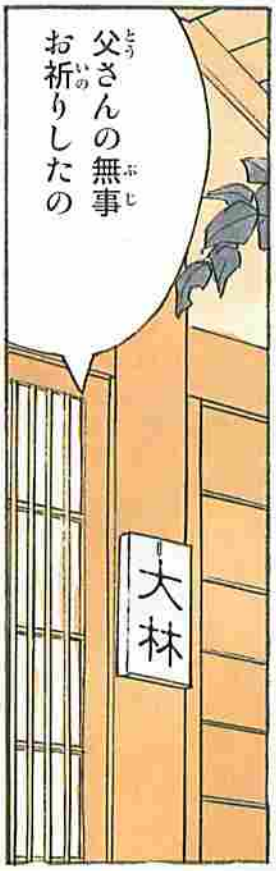
ひどいよお信ちゃんが焼け死んじゃうなんて！

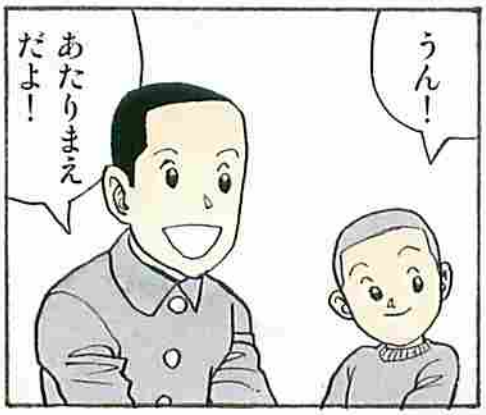
さあお地蔵さんに信ちゃんの無事をお祈りしようね

昭和二十年四月十三日(金)
晴れ

B29三百三十機
東京を四時間にわたり
無差別攻撃







配給

一般には、被災した人々へ生活必需品を配ることを配給といいますが、戦時中は配給制度というものがありました。配給切符と引きかえでなければ商品を買えなくなり、生活に必要なものが自由に手に入らなくなったのです。

そんな時代だけに、この物語でえがかれているような、ご近所からのおすそわけは、どの家庭でも非常にありがたいことでした。

【配給になったおもな物資】
砂糖、マッチ、木炭、乳児用ミルク、小学生服、牛乳、くつした、米、小麦粉、酒、ビール、じゃがいも、たまご、魚、さつまいも、おかし、塩、しょうゆ、みそ、衣料品

▲配給所にはいつも行列ができた

大根を煮たんだけど…
あらまあごちそうね
オレこれ大好き！
ジロも！
いつもすまないわねぇ
いいえ
おなかいっぱい食べてる？
うん！
はあい！
道子ねーちゃんありがとう！
また何かもってくるね
わーい！

おやつ

いま私たちのまわりには、甘くておいしいおかしがたくさんあります。しかし、戦争当時のおかしは、砂糖が配給制で手に入りにくかったため、あまり甘くありませんでした。大人たちは少しでも子どもを喜ばそうと、甘みのある野菜を使うなどの工夫をして、おかしをつくりました。

この物語に登場するおかしも、そんな苦心作です。当時のおやつを再現して、味わってみてはいかがでしょうか。

〈つくり方〉

●かりんとう…干しうどんを油であげる。砂糖と水を煮つめてあめをつくり、あげたうどんにからめる。

●カボチャまんじゅう…小麦粉を水で練って皮をつくる。ふかしたカボチャをつぶしてあんをつくり、皮で包んで蒸す。

屋根よ〜り
たか〜い
こいのぉぼり〜

翌日の日曜日
学校裏の空き地

これ？

ちがうよ

白い
まりみたいに
丸い花だよ

あっ ここに
いっぱい
あるよ！

わーい！

さ かして
ごらん

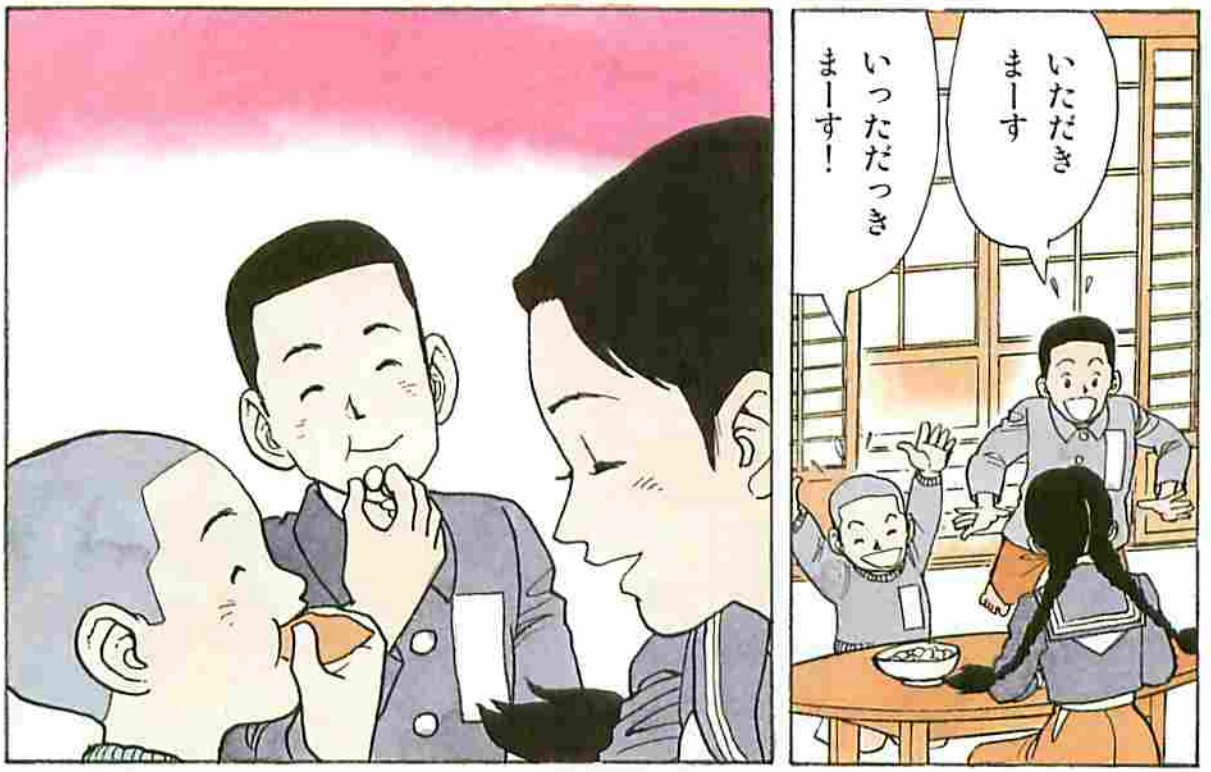
きれいに
つくってよ

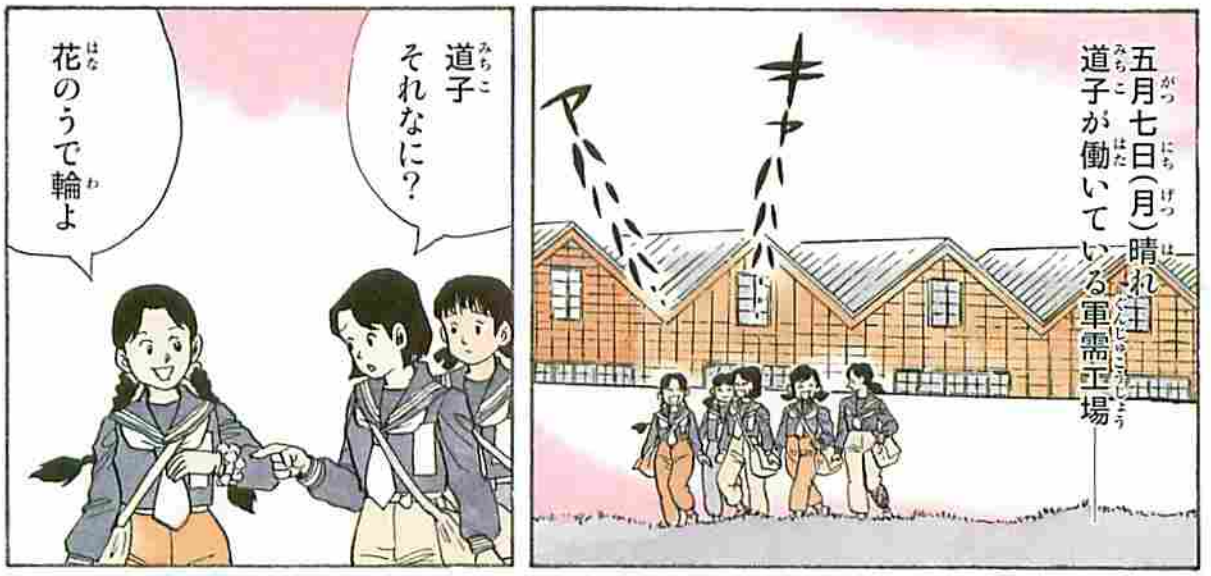
おくりもの
だからね

きゃあああー

コオオオー…
さっちゃん早く…
早くかくれなきゃ
私…もうだめ逃げて
何言ってるの助かるわよ
道子オ早く逃げて！
また来たわよォ！
逃げて…

道子ねえちゃんいる？
三上
あらたっちゃんにジロちゃん
なに？
はいこれあげる
あらかわいい花！
今日誕生日でしょ
すっかり忘れてたわ
学校の裏でつんだんだ
ジロもとったよ
そうありがとう
さおよりなさい
さ食べて
わーい
こらっジロ！
遠慮しなくていいのよ
みんなで食べましょ





軍需工場

戦時中は中学生くらいの年齢になると貴重な労働力として、畑や工場で働かなければなりませんでした。

女子生徒たちも、軍需工場に通い、飛行機や爆弾の部品をつくる日々をおくりました。

また、勉強する場であるはずの学校も、だんだん軍の下うけ工場のようになっていきました。教室やろうかにはミシンが並べられ、女子生徒たちは勉強をする時間もなく、作業服姿で一日中、足袋やゲートルをつくる毎日をおくったのです。

そんななか、昼休みのおしゃべりは彼女たちにとってつかの間の楽しみでした。

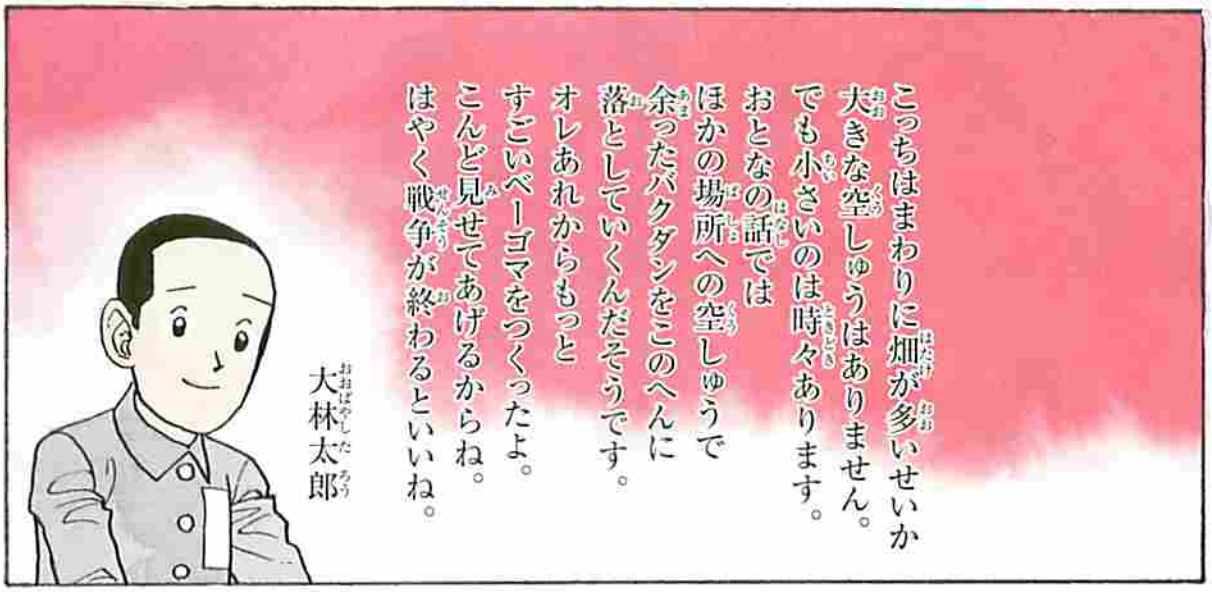
▲学校のろうかで軍服をぬう女子生徒

道子が編んだの？
誕生日にもらったの
キャー誰に？誰に？
お隣りの小学生よ
なァんだ
ひょっとしてその子道子のこと…
もしかして…
好き…なのかも
不謹慎よ！へんなこと言わないで！
さ 仕事よ
道子ごめんね
私たちも夢がほしいのよ
こんな時代だものせめて夢ぐらいみなくちゃ
私たち若いんだもの
ん…

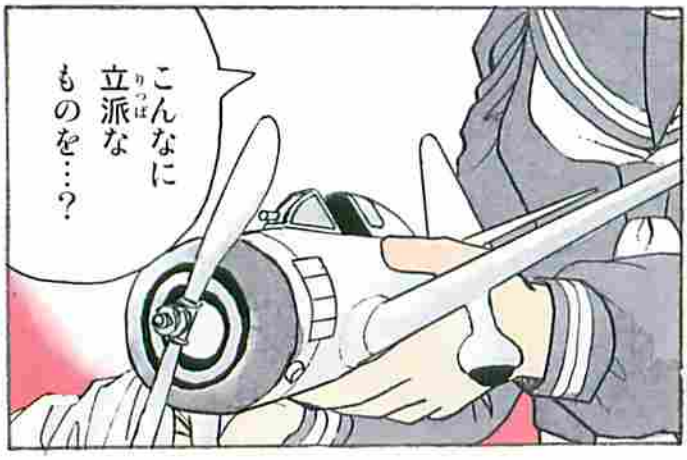
五月二十六日(土)雨
後藤温彦からの
手紙が届く

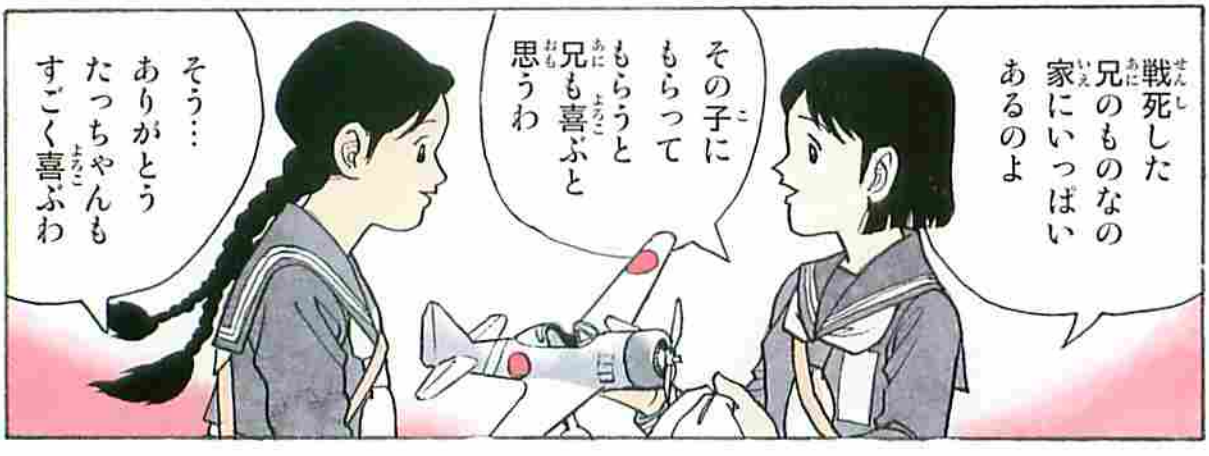
元気ですか。
きのうはすごい空しゅうでした。
ボクの家はだいじょうぶでしたが
まわりはいっぱい焼けました。
順子はこわくて泣いてばかりいます。
ボクはポケットの中の
たっちゃんからもらったベーゴマを
きつくにぎってがまんしました。
またたっちゃんとベーゴマやりたいね。
たっちゃんも空しゅうのときは
気をつけてください。

後藤温彦



これ
その子に
あげて

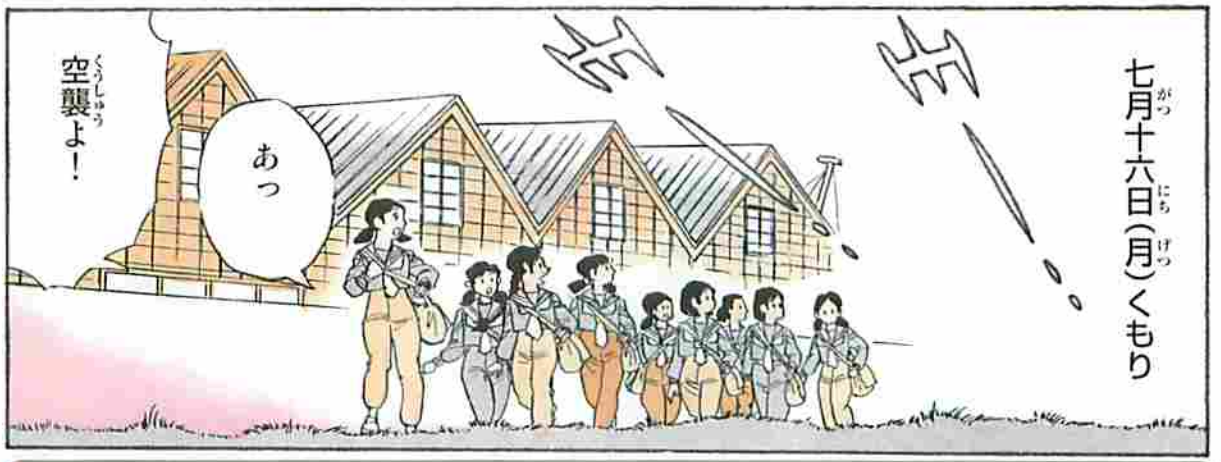

こんなに
立派な
ものを…？


戦死した
兄のものなの
家にいっぱい
あるのよ
その子に
もらって
もらうと
兄も喜ぶと
思うわ
そう…
ありがとう
たっちゃんも
すごく喜ぶわ

すげェ！
いいんですか？
こんな立派なものを

喜んでもらえて
友達も喜ぶわ
道子さん
いつもすいま
せんねぇ

手紙で
あっちゃんに
じまんして
やろう



遊び

戦争が始まる前までは、少年雑誌に組み立てて遊べる模型の飛行機や戦車の付録がついていました。この物語のなかで太郎がもらった飛行機もそのひとつです。

しかし、ものが不足してくるとそういった遊び道具はなくなってきて、男の子は木の枝を銃の代わりにして戦争ごっこをしたりして遊ぶようになりました。

一方、女の子はお人形を相手に包帯を巻いたり、薬を飲ませたりするかんご婦ごっこに夢中でした。子どもたちの遊びにも、戦争の影響が色こくあらわれていたのです。

▲戦争ごっこをする子どもたち

機銃掃射

東京大空襲ではB29による焼夷弾の攻撃が被害を大きくしました。しかし攻撃法はそれだけではなく、戦闘機による機銃掃射もありました。戦闘機についている機関銃で人間をねらい撃ちするのです。この銃は一秒間に何発も発射できるものでした。

逃げる途中に撃たれて亡くなった人のほか、命は助かっても腕や足を失った人もいました。短時間の空襲でも、人々に与える衝撃は非常に大きいものでした。

とくに、人がたくさんいる駅や電車は、機銃掃射の最大の標的にされました。

▲戦闘機・P51はたびたび人々を襲った

アキちゃん！撃たれたの！
さっちゃん！
早く立って逃げるのよ！

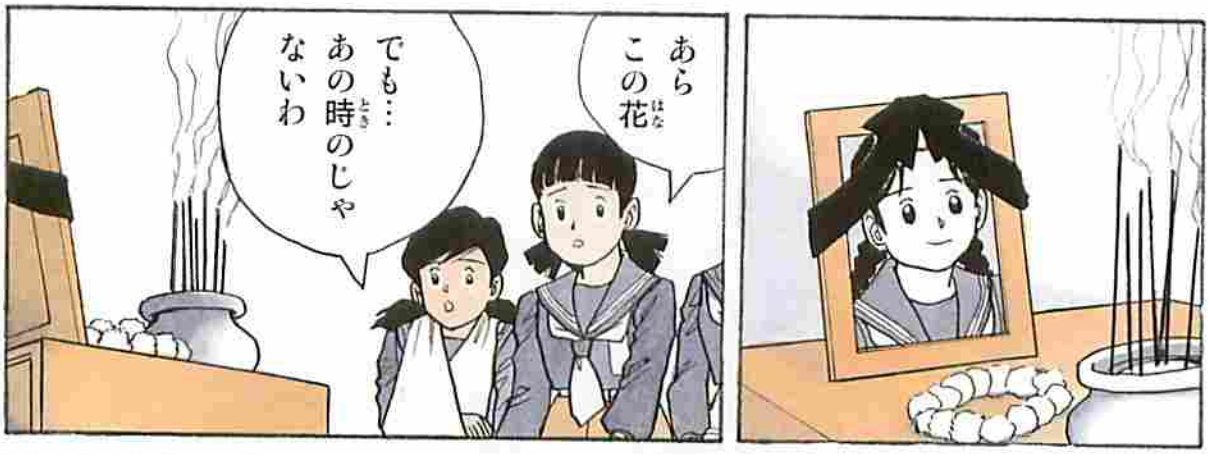
道子ォ！

さっちゃん！
アキちゃん
早く逃げよう！

私たちも
やられちゃうよォ
早く早くっ！

七月十七日(火)雨
忌中
三上

シクシク
エめ
エめ



あら
この花
でも…
あの時のじゃ
ないわ

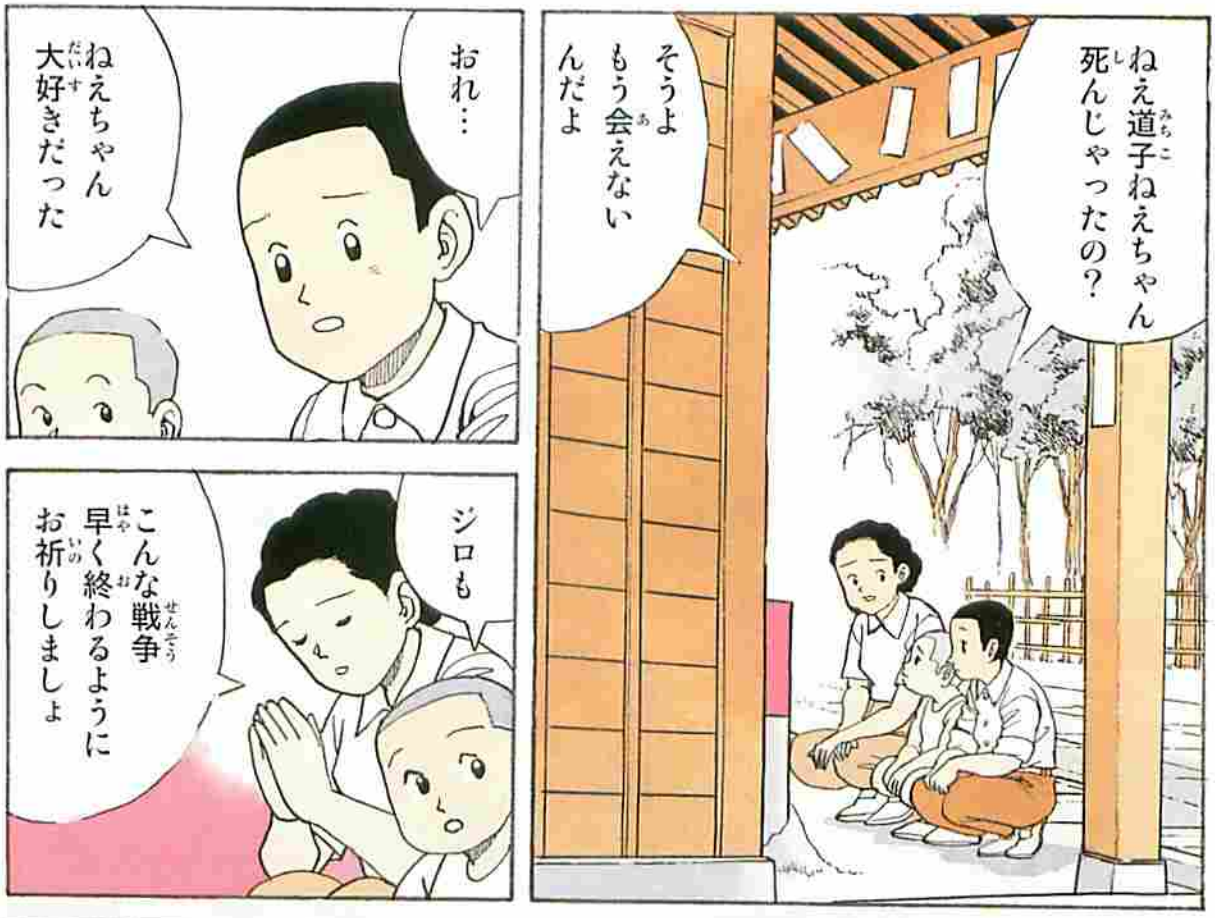
あなた
太郎くん？
うん

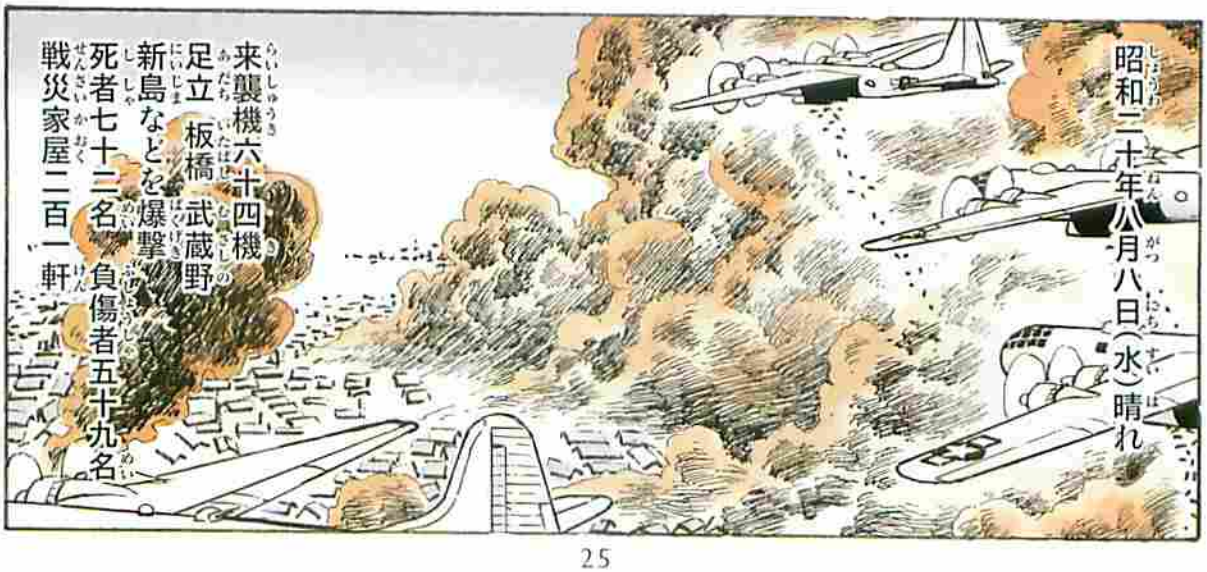
あなたなのね
やさしい子は
喜んでるよ
道子は

おれ…
くやしいよ

私たちもよ
これからだって
いうのに
ほんとひどい
話よね

数日後――
道子ねえちゃん
もういないんだ
ね


ねえ道子ねえちゃん死んじゃったの？
そうよもう会えないんだよ
おれ…
ねえちゃん大好きだった
ジロも
こんな戦争早く終わるようにお祈りしましょ


昭和二十年八月八日(水)晴れ
来襲機六十四機
足立 板橋 武蔵野
新島などを爆撃
死者七十三名 負傷者五十九名
戦災家屋二百一軒

昭和二十年八月十日(金)晴れ

来襲機百五十機
板橋　王子　滝野川などを爆撃
死者百九十五名　負傷者二百九十二名
戦災家屋千六百六十二軒

終戦間際の空襲

昭和二十年八月十五日に太平洋戦争は終わりました。戦争に勝つと信じていた日本国民は、ラジオからながれる敗戦の知らせを聞いて大きな衝撃をうけました。

その前日の八月十四日深夜から十五日未明にかけて、B29は熊谷、伊勢崎、秋田、神戸、小田原などの都市に焼夷弾の雨を降らせました。特に被害の大きかった熊谷では、二百六十六人もの人が亡くなりました。

まだくすぶっている焼け跡の中で終戦の放送を聞いた人は、一体どんな思いだったのでしょうか。

▲ラジオで終戦の放送を聞く人たち

昭和二十年八月十五日(水)晴れ

正午にポツダム宣言受諾の詔書が放送され(いわゆる玉音放送)終戦となる

平成十七年三月

信ちゃんと思いっきりお話ししたわ

おれも…

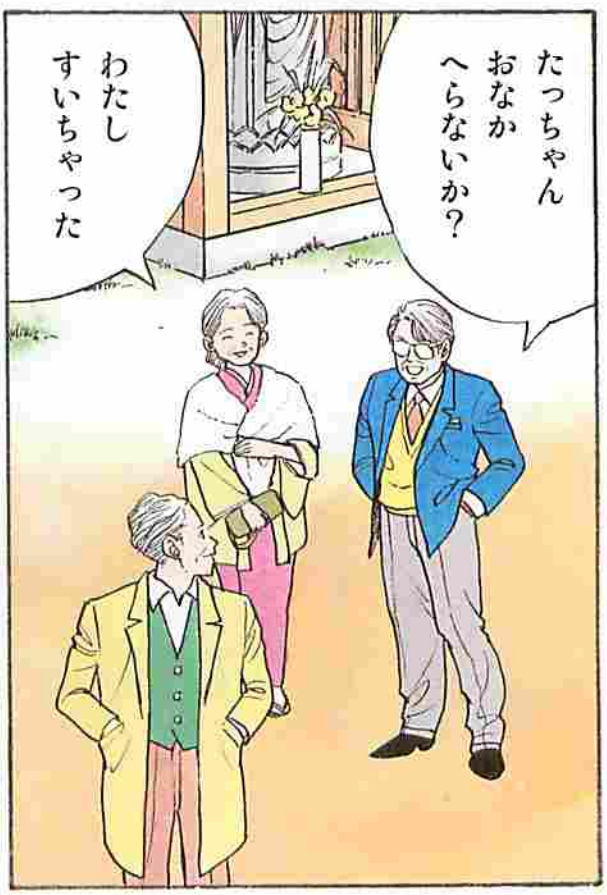
記憶の中の信ちゃんはいつまでも少年だな

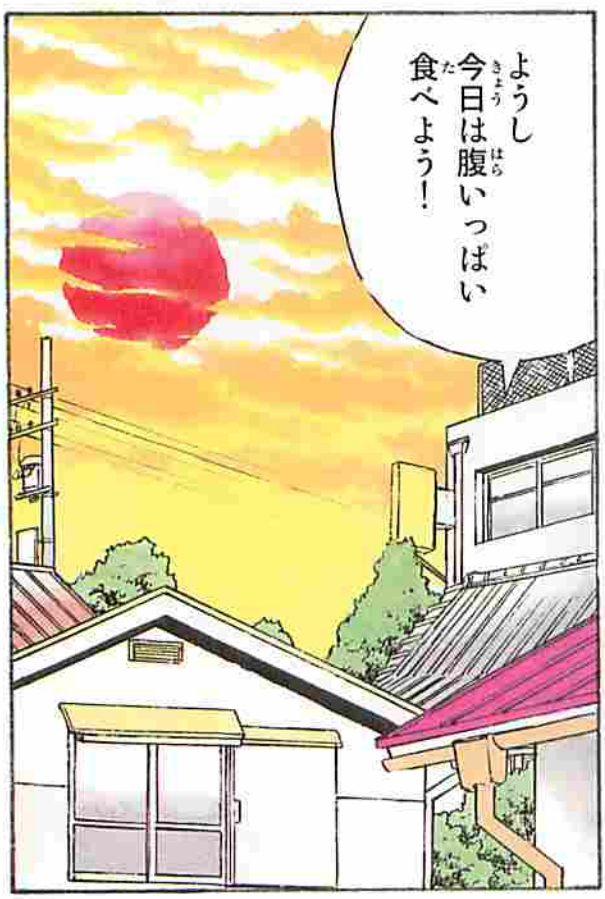
ほんとにそうね

ホントーッいやねぇ

太郎さん お若いこと
え？
たっちゃんは あこがれの 女性がいたんだ
おい よせよ
女学生だった よな
へえ 知らなかったわ
悲しい 思い出なんだ
お亡くなりに なったの？
ご病気で？
いや空襲の時に 機銃掃射で やられたんだ
ひどい話…
信ちゃんのときも 悲しかったけど
道子さんのときは ショックだったなァ
戦争は ひどすぎる な
もう 絶対いやね

今度 弟の次郎と
花のうで輪をつくって
道子さんのお墓に
もっていこう





戦争写真館

▲多くの人が家を焼き払われ、ほら穴のような防空壕で生活するしかなかった。中は狭く、じめじめしていた。

▲空襲で家をなくし、あてもなく避難する子どもたち。家族と離ればなれになり、浮浪児になってしまう子がたくさんいた。

◀集団疎開へ出発する子どもたちを見送る居残り組。家族のいない疎開先での生活は、つらいものだった。

▲軍隊に一日入隊をする子どもたち。小学生のうちから、兵隊として戦うことを教えられた。

▲授業中でも防空ずきんはかぶったままだった。空襲が激しくなってくると、授業さえできなくなった。

空襲などにあったおもな町

1942年（昭和17）の4月から戦争が終わった1945年（昭和20）の8月までのあいだ、日本国内の以下のような町が空襲や艦砲射撃などを受けました。そして、その多くの町が何回も空襲を受けました。このほかにも規模の小さなもの、軍の施設が爆撃されたものなど、実際にはもっと多くの町が空襲や艦砲射撃などを受け、全体で50万人以上〔注1〕の一般住民が亡くなりました。

●北海道
函館市
小樽市
苫小牧市
網走市
留萌市
旭川市
室蘭市
釧路市
帯広市
根室市
本別町

●青森県
青森市
八戸市

●岩手県
盛岡市
花巻市
釜石市
宮古市
一関市

●宮城県
仙台市
石巻市
塩釜市

●秋田県
秋田市

●山形県
酒田市

●福島県
福島市
郡山市
いわき市

●茨城県
水戸市
日立市
土浦市
高萩市

●栃木県
宇都宮市
足利市
栃木市
鹿沼市

●群馬県
前橋市
高崎市
桐生市
伊勢崎市
太田市

●埼玉県
さいたま市
川越市
熊谷市
川口市

●千葉県
千葉市
銚子市
船橋市
館山市
木更津市
松戸市
市川市

●東京都
区部
八王子市
立川市
武蔵野市

●神奈川県
横浜市
川崎市
平塚市
藤沢市
小田原市
横須賀市
鎌倉市

●新潟県
新潟市
長岡市

●富山県
富山市
高岡市

●福井県
福井市
敦賀市

●山梨県
甲府市

●長野県
長野市
上田市

●岐阜県
岐阜市
大垣市

●静岡県
静岡市
浜松市
沼津市
磐田市
三島市
伊東市
島田市

●愛知県
名古屋市
豊橋市
岡崎市
一宮市
瀬戸市
豊川市
半田市
春日井市
津島市

●三重県
津市
四日市市
伊勢市
桑名市
上野市
鈴鹿市
松阪市

●滋賀県
大津市
彦根市
長浜市

●京都府
京都市
舞鶴市

●大阪府
大阪市
堺市
豊中市
高槻市
吹田市
東大阪市
守口市
岸和田市
池田市
泉大津市
枚方市

●兵庫県
神戸市
姫路市
尼崎市
明石市
西宮市
芦屋市
伊丹市
相生市

●奈良県
奈良市

●和歌山県
和歌山市
海南市
有田市
御坊市
田辺市
新宮市
串本町
那智勝浦町
下津町

●鳥取県
米子市

●岡山県
岡山市
玉野市

●広島県
広島市
呉市
福山市

●山口県
下関市
宇部市
山口市
徳山市
防府市
下松市
岩国市
小野田市
光市

●徳島県
徳島市

●香川県
高松市

●愛媛県
松山市
今治市
宇和島市
八幡浜市
新居浜市

●高知県
高知市

●福岡県
北九州市
福岡市
大牟田市
久留米市

●佐賀県
佐賀市

●長崎県
長崎市
佐世保市
島原市
諫早市
大村市

●熊本県
熊本市
荒尾市
宇土市
八代市
人吉市
水俣市

●大分県
大分市
別府市
中津市
日田市
佐伯市

●宮崎県
宮崎市
延岡市
日南市
日向市
都城市
高鍋町

●鹿児島県
鹿児島市
薩摩川内市
串木野市
阿久根市
指宿市
国分市
西之表市
垂水市
鹿屋市
枕崎市
山川町
頴娃町
知覧町
東市来町
姶良町
加治木町

●沖縄県〔注2〕
那覇市
名護市
沖縄市
浦添市
糸満市
平良市
石垣市
本部町
与那城町
嘉手納町
西原町
与那原町
南風原町
伊江村
今帰仁村
読谷村

〔注1〕沖縄県では、県下で地上戦が行われ、軍人以外の一般住民の死亡者が約10万人にもおよびました。このため「空襲や艦砲射撃など」に限定した被災状況を把握することがむずかしいので、「50万人以上」の中には沖縄県の人数は含まれていません。
〔注2〕沖縄県については、規模の大きかった1944年（昭和19）10月10日の空襲を受けたおもな市町村を記載しました。

この物語は戦争の悲惨さを次の世代に伝えるために、東京大空襲の事実に基づいて制作したフィクションです。したがって、この物語に登場した人物や団体などは実在しません。

写真提供・毎日新聞社
共同通信社

この本を読んで、感想や作文をお寄せください

社団法人 日本戦災遺族会
〒102-0083 東京都千代田区麹町1-3 ダイアン麹町ビル4F　TEL.03-3264-5287

制作協力 / 株式会社NHK情報ネットワーク

2004.12